

# めぐみ幼稚園の「活動」



子供が地上に生まれてしばらくの間は、子供は“個人”というよりも、自他の区別が曖昧な、大人とは全く異なった感覚の中で生きています。幼児期は、そういった感覚から大人と同じ感覚へと移っていく大切な時期にあたります。また、幼児は、肉体的にも知的にも自ら成長しようとしています。私たちはそのサインを見落とすことなく、それを援助してあげなければなりません。この大事な時期を過ごすにあたって、ご家庭と幼稚園とは、様々な面で協力しあい、幼児の保育にあたるのが重要です。この冊子を通じて、幼稚園の活動の内容と意味をご理解いただければと思います。

## ～ 一年の主な行事 ～

<b>野外活動</b> (自然散策)	当園では、年間4回の野外活動を行います。広い場所で、友達とともにのびのびと遊びや様々な体験をしてもらいます。園児が自然に触れ、自然の感覚と美しさを体感できるように、できるだけ自然散策の時間を設けていきます。また、普段は幼稚園の給食を食べている園児ですが、野外活動の時には、いつもと違った場所で親の真心のこもったお弁当を食べるのも、大切な記憶の1ページとなることでしょう。
<b>お遊戯会</b>	園児にとって、お遊戯会は一生の大きな思い出となります。友達と協力して演技に取り組むことで、充実感や達成感を味わい、それが自信となって次の活動への大きなエネルギーとなります。また、当園自慢の施設である遊戯室の舞台は、園児の発表に華やぎを添えています。
<b>運動会</b>	運動は単に体づくりだけでなく、体を動かすことを通じて達成感を感じ、自信をつける大切な体験のひとつです。運動会では、園児に体を動かす楽しさを味わってもらうとともに、園児の精神的な成長を促すことを重視して、年少、年中、年長それぞれにふさわしいと考えられる種目を選んでいきます。のびのびと運動できると同時に、園児と一緒にご家族にも楽しんでいただける行事となっています。
<b>季節の行事</b>	七夕、親子活動(芋汁会)、もちつき、節分の豆まき、ひなまつりなど、伝統的な季節の行事にあわせて、園でも飾り付けや催し、そして、その行事特有の食事などを体験してもらいます。園児は、このような行事を通じて、季節が周期的にめぐることを感じ取り、この世界には一定のリズムがあることを、知識と実体験の両面から知ることとなります。
<b>野外遊びと水泳活動</b>	野外遊びは年5回(年少は3回)行います。ここでは集団遊びを体験し協調性を養います。水泳活動は竜城スイミングスクールで年3回行い、“体験”を重視した活動になります。園内には広い水遊び場があり、園児が太陽の下で思う存分に戯れ、遊ぶことができます。

お泊り保育	<p>年長では、7月に園舎に一泊するお泊まり保育を行います。多くの園児にとっては集団で外泊する初めての体験となります。生活を共にすることで、相手の立場にたって考えてあげる思いやりと、皆で行動を共にする協調性を教えていきます。これらの体験は、これからの社会への自立にむけた、大事な一歩となります。</p>
世界の人々との出会い	<p>この世界には、いろいろな言葉や習慣があり、外見も異なった人々がたくさん住んでいます。園児にも、その多様性と、お互いを尊重しあうこと、そして、ともに仲良く暮らしていくことを知ってもらう必要があります。近くにある日本語学校にきている様々な国の方々に園に遊びに来てもらい、一緒に楽しく過ごす時間を設けます。このような交流会は、年中と年長が行います。</p>

## ～ 幼稚園の日々 ～

園内の緑化 花を育てる	<p>園には、広い緑の園庭をはじめ、園のいたる所に緑を育てられる場所を用意しています。園児には、できるだけ自然そのもの、美しいものに触れてもらい、その成長の過程や季節の変化を見ます。また、実際に園児にも、花を植えたり、緑の世話に参加したりすることで、“育てる”という体験もします。</p>
野菜づくり	<p>「食育」と「様々な体験」をしてもらうことを念頭に、園内外の農園で、芋をはじめとした様々な野菜を四季をとおして園児とともに育てていきます。苗を植えるところから、水遣り、収穫までの一連の流れを体験してもらいます。もちろん収穫したものは給食の食材として皆で食べて、自分で作ったもののおいしさと、達成した充実感を味わいます。</p>
お当番	<p>自主性と他人との協調性や思いやりとを育む一環として、園児の年齢に合わせて、一年を通じて様々な“お当番”を体験してもらいます。園内の緑や花、野菜などへの水遣り当番をはじめ、給食当番、あいさつ当番などがあります。</p>
静かに集中する時間	<p>近年、園児を取り巻く環境は、以前に比べてテンポの速いものが増え、騒がしいものが増えてきました。しかし、しっかりした感性を育てるためには、静かに集中する時間がきわめて大切です。当園では、園児が興味をもって、自然と静かに集中できる「習字」に着目し、活動の中に取り入れています。</p>

<b>遊びのコーナー</b>	<p>園では、各教室において年間を通じて様々なことを体験してもらいますが、それ以外にも、自主活動の時間に、興味がある園児が自由に参加できるコーナーも設けます。行う内容は、造形あそび、紙芝居や絵本の読み聞かせ、運動あそびなどから選ばれ、随時に行われます。</p>
<b>絵本・紙芝居 人形劇</b>	<p>絵本のおよみかたり、紙芝居、人形劇は、園児の感性、知力、社会性を育む上で、とても大事なものになります。通常の保育の中においても、年少、年中、年長のそれぞれの年齢にあった内容のものを選んで行っていきます。また、園では絵本の貸し出しも行っており、家庭での教育にも役立てていただいています。</p>
<b>木のおもちゃ</b>	<p>金属やプラスチック製品が多くなった現代において、自然なものできたものに触れることは大事なことです。園児が使うおもちゃも、できるだけ自然な素材を用いたものにと考えています。予算の都合で、今すぐにすべてを入れ替えることはできませんが、古くなったものから順次、自然素材のものに入れ替えています。</p>
<b>あいさつ運動</b>	<p>あいさつは、相手とのコミュニケーションをとる上での入り口であり、これ無くしては人との交流は成り立たない、極めて大事なことのひとつです。園では、あいさつ運動と称して、最も力を入れる活動として取り組んでいます。しかしながら、基本的な生活習慣全般に言えることですが、ご家庭の方々が実行されていないと、園がどのように努力しても、あいさつや基本的な生活習慣は身につけません。ご家庭と園との協力が大切となります。</p>
<b>異年齢・親子 の交流</b>	<p>一定の場所で、年齢の違う子供が遊ぶ場合、年齢の上の子供が、年齢の下の子供を気遣う行動が自然とみられます。こういった園児たちの自然な成長を促すために、自主活動の時間を中心に、年少、年中、年長が、お互いに入り混じって遊ぶことを重視しています。また、園では様々な行事に家族の方にお越しいただき、子どもの活動を見たり、参加したりする機会を設けています。これは親子の絆を強めていただくほか、子供たちにとっては社会と家族の関係をうかがい知るよい機会となります。</p>
<b>実生活の場 における教育</b>	<p>“思いやり”や“協調性”は、保育や言葉ではなかなか教えられることではありません。実際の生活の中での様々な局面を体験することで育まれていくとともに、家族や保育者などの大人の行動を見ながら会得していくものです。保育者は、園児の日常に起こる様々なことに注意を払いつつ、そのような場面を通じて、園児に“思いやり”と“協調性”を教えていきます。</p>